

ヴァイオリンの小林美恵さんは、その音楽にますます深みを増し、凄いです。彼女の音楽を岡山で今聞き逃すのはモッタイナイ！！また、今回はなかなか聴くことの出来ない素敵なプログラムとなっています。R・シュトラウスのVn ソナタは小林さんのお気に入り曲。伴奏が超絶難曲のため、なかなか弾くチャンスがないようですが、今回最強の伴奏者・加藤洋之氏をお迎えして、岡山再演です。ぜひお越しください。



小林 美恵 ヴァイオリン
Mie Kobayashi, Violin

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学を首席で卒業。在学中に安宅賞、福島賞を受賞。1990年、ロン＝ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。

以来、国内外で本格的な活動を開始する。

これまでに、NHK交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢等の国内の主要オーケストラ、ハンガリー国立交響楽団、プラハ交響楽団のソリストとして、充実した演奏を高く評価される。また、静岡のAOI・レジデンス・クワルテットのメンバーをはじめ、数多くの共演者と室内楽の分野においても活動を広げ、軽井沢国際音楽祭に毎年出演するなど音楽祭にも積極的に参加している。

CDは、「プレイズ・クライスラー」、パスカル・ロジェとのデュオ「フォーレ」「ラヴェル&エネスコ ヴァイオリン・ソナタ集」、ツイゴイネルワイゼンなどを収録した「ヴァイオリン名曲集」など多数リリース。2010年には、紀尾井ホールでデビュー20周年の記念リサイタルを好演、同年ロン＝ティボー国際コンクールのヴァイオリン部門の審査員として招かれた。フランス、イギリス、タイ、中国、韓国、ニュージーランド等でも公演を行い、洗練され、しかもダイナミックに奏でられる重厚な演奏は、多くの聴衆を魅了した。

2015年はデビュー25周年を迎え、2015-2016年の2年間で5回の記念リサイタルを行っており、今後も日本を代表するヴァイオリニストとして、リサイタル、室内楽、オーケストラとの共演など多くの公演が予定されている。現在、昭和音楽大学客員教授。

ピアノの加藤さんは、小林さんの芸大同級生。気心知れた伴奏者として、いままでも多くの演奏会・CD録音を行ってこられました。彼の音楽・ピアノの音への執着・執念ともいえる想いは半端ではありません。以前、白十ホールでの加藤氏のピアノ演奏の凄さに感動しました。こんな素敵なピアノの音を聴くチャンスを逃してはモッタイナイ！！ぜひお越しください。



加藤洋之 ピアノ
Hiroshi Kato, Piano

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学器楽科を首席で卒業。学内にて「安宅賞」を受賞する。同大学院在学中の1990年にジュネーヴ国際音楽コンクール第3位入賞後、ハンガリー国立リスト音楽院に留学し、イシュトヴァン・ラントシュ氏に師事、1996年より文化庁海外派遣研修員としてケルンに移り、パヴェル・ギリロフ氏に師事した。

1993年にルセ国際音楽祭でブルガリア国立放送響と協演した後、ブダペスト・フィル、スウェーデン・ヘルシンボリ響の定期公演への出演、ハンガリー国立響、東京都響、日本フィルなど内外のオーケストラと協演し、現在までソリスト、室内楽奏者としてドイツ各地や、イタリア、スイス、オーストリア、ベルギー、オランダ、スペイン、チェコ、スロヴェニア等でのコンサート、オーストリア国営放送、スイス・ロマンド放送、BBC、ハンガリー国営テレビ等への出演、録音等の演奏活動を続けている。2001年リムーザン国際室内楽フェスティヴァル（フランス）へ招待された。また東京・春・音楽祭には2011年以来毎年ソロと室内楽で出演している。

ウィーン・フィルのメンバーたちと頻りに室内楽を演奏し、特に第1コンサートマスター（～2015）のライナー・キュッヒル氏とは15年に以上にわたり国内外に150回以上の公演を重ねてきた。2002年12月のウィグモア・ホール（ロンドン）でのコンサートは”The Times”紙上で絶賛される。また、2010年6月にはウィーン芸術週間に出演、3日間に亘るベートーヴェンの「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ」全曲演奏会がムジークフェラインザールにおいて開催され、大成功を収める。

2015年まで東京芸術大学で後進の指導にもあたった。